

# 交野市教委ニュース

第199号(令和5年10月23日発行)

## 古文書集中調査を実施しました!

社会教育課文化財係では、令和5年9月30日(土)と10月1日(日)に青年の家で古文書集中調査を実施しました(右写真)。調査には、大阪大学と神戸女子大学から合計30名の学生が参加しました。



### 今年度の古文書集中調査

- ①私部地区文書の整理番号付与および目録作成
- ②無量光寺文書の撮影



調査は交野市文化財保護審査委員会副会長の村田路人先生(専門は日本近世史、神戸女子大学教授)の指導のもと、毎年実施しています。

9月30日(土)の14時から是一般市民の方の見学会も実施し、担当者が古文書整理の流れについて説明を行い、参加された市民さんは興味を持って見学されていました。

### 2日間の作業実績

- ①私部地区文書:目録211点作成、ラベル貼り130点、撮影573枚
- ②無量光寺文書:ラベル貼り249点



### 様々な発見!

作業を通して、江戸時代・明治時代の私部村に関する様々な発見がありました。

今回の調査の成果として、嘉永6年(1853)の私部村の絵図が確認できました。この絵図について簡単に紹介したいと思います(左写真)。

### (1) 私部村には二人以上の領主

私部村は江戸時代、西株(1070石余・畠山領)と東株(512石・元禄7年から小田原藩領)に分かれており、それぞれに庄屋が置かれていました。江戸時代、私部村のように一つの村に二人以上の領主がいることを「相給(あいきゅう)」と呼んでいます。そのため、この絵図の付箋には、一つの小字(こあざ)ごとに、畠山領と大久保家領の石高が列記して記載されています。

### (2) 絵図作成時から大きく変わらない道

絵図に描かれている赤い線は「道」で、人々の居住地域については、現在とほぼ同一の位置に道があります。ここから、江戸時代の私部村の居住地域の道は、現在に至るまで大きな変化がないことがわかります。

また、川に沿って作られた堤(堤防)には、松の絵が描かれ、堤の上に松が植林されている様子がわかります。絵図右下端や左端にある、灰色の土地は墓地を示しており、絵図からも村の外側に置かれていることも読み取れます。現在もこの2つの墓地はあります。

### (3) 当時の逢合橋

村の入口付近にある橋、現在の逢合橋の当時の様子について少し触れておきたいと思います(右写真)。

この絵図では、他にも川の上に橋が描かれていますが、村の入口付近の天野川にかかる橋はかなりしっかりと描かれています。

この橋の左側に建物が描かれていますが、建物説明に「橋番」とあることから、この橋の通行人は村によって管理されていることがわかります。なぜ、ここにこのような橋が置かれているのかは、絵図からだけではわかりませんが、今後古文書調査を進めれば、手がかりをつかむことができるかもしれません。



文化財係では、このほか星田地区にある江戸時代の絵図を保管し、調査を進めてきました。今後は、これら市内に残る江戸時代の絵図を見ながらのまち歩きができるよう、次年度に向けて整理を進めたいと思います。